

海外便り

エチオピア通信 (7)

中山 実

1. はじめに

本格的な乾季が始まりました。雨が降らず、日差しは非常に厳しい毎日です。しかし、乾燥しているので、木陰に入れば、涼しい感じです。

さて、エチオピアでは、テフ（粟科の穀物）の粉で作られたインジェラという名前の食べ物が主食です。これは、柔らかい酸味のあるパンケーキのようなものでワットと呼ばれるスパイスの利いた煮込み料理と共に食べます。インジェラは、日本で言えば、米に値する主食ですが、栄養価は米よりも非常に高いです（写真-1）。しかしながら、私は、あまりの酸味のために食べる事を好みません。センターの職員は、私に、「なぜ、インジェラを食べないのだ。こんなおいしいものはない」と、いつも言います。ワットも、かなりの脂っこさなので私は、食べる事を好みません。脂っこい理由は、エチオピア人は、油を多く使えば、料理が上手くなると思っているため、かなりの油が使用されているためです。ここで、牛肉のカイワット（カイワット：色々な種類の肉や野菜をバルバレ（赤唐辛子）で煮たもの）の作り方を記しますので、チャレンジしてみてください。



写真-1 晩御飯

“牛肉のカイワット”

材料＝牛挽肉（300g）、玉ねぎ（4個）、トマト（2個）、トマトペースト（小1缶）、赤唐辛子粉（大さじ2杯）、にんにくと生姜のすりおろしミックス（大さじ1杯）、コショウ（小さじ1杯）、水（500cc）、サラダ油（100cc）

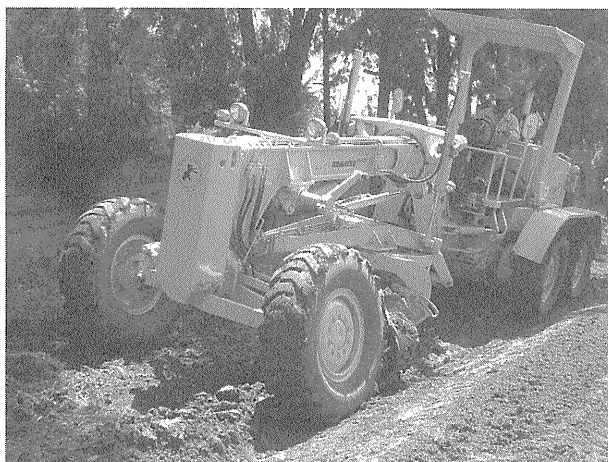
- ① みじん切りにした玉ねぎをサラダ油できつね色になるまでよく炒める。
- ② 赤唐辛子粉を入れてよく炒める。
- ③ ざく切りしたトマトとトマトペーストを入れて炒め、さらに、にんにく生姜と挽肉を加え、よく炒める。
- ④ 水、塩、コショウを入れ、蓋をして時々かき混ぜながら15分ほど煮こむ。
- ⑤ 完成！（赤唐辛子粉は、好みの辛さによって分量を調節する。辛いのが好きな人は、トマトを入れずに作ると良い）。

2. OJT 訓練から明確になった、エチオピアの課題

8月よりOJT研修として、訓練センター内で舗装工事を行っています。これまで、私なりに、現場施工監督者として養成するための技術移転を行ってきましたが、常々、彼らは、「自分は、教わらなくても、問題無く施工を指示できる」等々を言って、あまり人の話を聞かないので、実習を行って確認する事にしたのです。極端に言えば、細かな理論を頭で理解していなくても、今までの経験で施工を知っている事も考えられますし、実際に施工が上手く出来れば、問題なしなのです。

しかしながら、彼らの施工は日本側から見れば問題山積みです。まず、彼らは、日本のみならず先進国ならどの国でも常識だと思うのですが、工程計画なるものを作りません。エチオピアの習慣だと言ってしまうかもしれませんが、工期の概念が無いと言うのが決定的な要因です。そのため、フィーリングで準備・施工を行っていくのです。それなので、建設機械や材料が、うまく調達出来なければ、調達行為が完了するまで工事はストップします。日本では、工事が始まってから、建設機械・材料の調達の遅れで工事がストップする事は、大災害等を除いて、ほぼ考えられません。なにせ、工事が止まれば、余分な経費がかさむのは、当たり前の事であり、それを阻止するために施工計画を念入りに練ってから工事を開始するからです。これが、現場施工監督者の大きな使命なのです。だから、8月からOJT研修を行っているといいましたが、厳密には、9月中旬よりの開始となりました（写真-2、写真-3）。

計画がないのですから、実際の施工においても、出たとこ勝負の感が否めません。かれらの技量を確認する事が目



写真—2 仮設道路工事



写真—3 仮設道路工事

的でしたので、初めからアドバイスをすることはしなかったのですが、仮設道路建設時にもかなりの問題が生じました。水はけのための側溝がなく、雨が降った時、かなりの雨が流入して、仮設道路にかなりの影響が見られました。そこで、「ここに、小さくて良いから側溝を作らないといけない」とアドバイスをしても、自分の施工が正しいので、決して非を認めませんし、次のような言い訳をします。

「君は、ここに側溝を作れというが、グレーダで作業をしている時に、ここには、パイプが埋まっていたのが発見されたんだ。だから、作る事は出来ない。それにこれは仮設道路だからいらぬ」と。

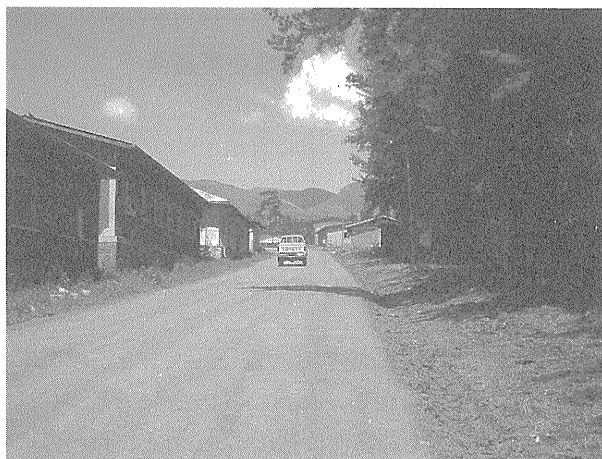
確認してみると、パイプの上を振動ローラで転圧しているではありませんか！

すぐに、

「ここにパイプがある事を施工前に調査して把握しておかなければいけない。もし、パイプがあるのなら、仮設道路を50cmでも、ずらして建設すれば良いのだ。建設場所を確認すると、2mでもずらす事が可能ではないか！ここは、センター内だから問題はあまり発生しないけど、一

般の道路で行った時、一般交通に多大な影響を与えるだろう。具体的には、トラック等の目的地到着時刻が2時間、3時間遅れる事になる。それが、エチオピアの経済に影響を与える事になるのだ。だから、仮設道路といえども、軽くみでは行けない。それに、パイプをなぜ転圧しているんだ。壊れてしまうじゃないか！」

しかし、こんなアドバイスは一切聞きもしません。何せ、「仮設道路は完成したではないか、なぜ非難されないといけない」という考えで頭がいっぱいだからです（写真—4）。



写真—4 仮設道路2（供用中）

だから、このような指摘を行えば、逆に、こいつは土木の何も判っていないと言われます。この点は、理論を技術移転している時からの私とエチオピアサイドとのギャップですが、このギャップが埋まるのかどうか疑問です。なにせ、自分の非を認める事は、自分自身を否定した事に直結するようです。それなので、自分の存在をアピールできないと生き残れないので、とにかく自己顕示欲が強くなるのではないかと推察されるからです。

土木施工は、技術もさる事ながら、段取り（計画）が大きなウェイトを占める事を彼らは理解できません。いまだに、最新技術を学んで、日本のお金があれば、全てが解決すると考えています。物事の過程が完全に抜けきっている状況です。まあ、これだけ、日本に限らず世界各国から援助をされていると、過程が抜けきるのかも知りません。なぜなら、彼らが気付いた時には、すでに過程が抜けている技術を目にしているのですから（例えば、パソコンの存在）。

これが、OJT訓練を開始して、より明らかになったエチオピアの課題だと感じます。